

地域情報（県別）

【神奈川】3周年の村田会湘南大庭病院、地域ニーズに合わせて療養病床増やし、在宅医療も開始-村田尚彦・医療法人社団村田会理事長に聞く◆Vol.1

院長は元東海大学呼吸器内科教授「法人の強みともマッチ」

2023年10月20日（金）配信 m3.com地域版

「今でいう、地域包括ケアをつくりたいと思ってずっとやってきた」――。医療法人社団村田会（藤沢市）の村田尚彦理事長は1993年の開業後、医療と介護の連携を図ろうとクリニックだけでなく介護老人保健施設や住宅型有料老人ホーム、デイサービスセンターも立ち上げ、2020年には「村田会湘南大庭病院」も開設した。「自分が目指してきた施設展開の一応の完成」と病院開設前に話していた村田理事長に、3周年の現在を聞いた。（2023年9月20日インタビュー、計2回連載の1回目）

▼第2回はこちら



村田尚彦氏

――2019年の取材時に少し触れましたが（詳細は『【神奈川】「24時間外来」が評価され、県救急医療功労者表彰を受賞-村田尚彦・村田会湘南台内科クリニック院長に聞く◆Vol.1』を参照）、医療法人社団村田会は2020年7月に村田会湘南大庭病院を開設しました。3年経った現在の状況を教えてください。

医療法人社団村田会には現在、約350人のスタッフが在籍しており、村田会湘南大庭病院には3人の常勤医と9人の非常勤医が勤めています。私は1993年に開設した現「村田会湘南台内科クリニック」の院長を今も務めており、病院の院長は私と35年ほどの親交があり、クリニックの非常勤医として勤務していた小林一郎先生が開院時から担っています。

「病院」と聞くとさまざまな診療科があるデパートのようなものを想像する人もいると思いますが、当院は地域のニーズと自院のリソースを踏まえた展開を重視しています。病院がある藤沢市北部は同市内でも高齢化が進んでおり、中でも病院周辺の大庭地区は高齢化率が市内で最も高い状況です（2023年9月1日現在、約33%）。こうした特性を踏まえて、高齢患者が多い呼吸器内科や脳神経内科、整形外科の診療に注力しています。呼吸器内科と脳神経内科はこの地区に少ない一方、小林院長は東海大学呼吸器内科の教授を務めた経歴があるため、法人の強みともマッチします。1日の外来患者数は60人ほどです。

――「開院時は72床を備える」と以前の取材で話していました。病院のホームページを見ると、91床に増えていますね。

2022年に19床増床し、現在は地域包括ケア病床41床、療養病床50床を備えます。開院時は地域包括ケア病床40床、療養病床32床という割合でしたが、有床診療所だったクリニックのベッドを閉じて療養病棟に移しました。

クリニックを2003年に有床診に切り替えて以来、法人では短期入院を中心に入院医療も提供してきましたが、有床診ではできる医療に限られるうえ、診療報酬も病院と大きく異なります。有床診は入院期間が30日を過ぎると保険点数が下がり、大まかに言えばビジネスホテルの宿泊費よりも低くなってしまふんですね。全国的にほとんどの有床診は赤字であり、私たちのところも赤字に近い状況でした。

有床診に切り替えるときも病院をつくりたい思いがありましたが、自治体の整備計画も関わるため、当時はできませんでした。「利益は法人全体で出せばいい」「有床診でも短期入院の必要がある感染症の患者さんなどに貢献できるし、ご家族の介護負担を減らせることもある」「法人が運営する介護老人保健施設と良好に連携でき、病院からの紹介も受けられる」——。こうした考え、つまるところ、私がモットーとする「地域の安心・安全」のために有床診を運営してきましたが、病院開設により入院医療を拡充できたことで、ベッドをまとめたわけです。

——地域包括ケア病床と療養病床を備えるなかで、後者を増やした理由は。

療養病床の方が地域ニーズが大きかったためです。地域包括ケア病床も一定の必要性がありますが、近年は多くの病院が同病床を増やしており、藤沢市を含む2次医療圏「湘南東部医療圏」では長期にわたって入院医療を提供する療養病床の方が不足しています。当法人はクリニックと病院のほか、老健と住宅型有料老人ホーム、デイサービスセンターも運営しており、ミニマムな意味での地域包括ケアは法人の中でほぼ完結させられます。

その一方で、各都道府県が策定している地域医療構想の実現に向け、周辺の医療機関の要望に添えていくことも大切です。「地域でベッドをうまく回していく一助になれば」と、療養病床を増やす判断をしました。地域包括ケア病床は周辺病院に備わっていることも影響し、病床稼働率には波がありますが、療養病床の方は安定して9割以上を維持しています。

——ホームページによると、病院では在宅医療も行っています。開設前はクリニックを拠点に先生が訪問していました。

病院の方が人材が豊富なので、開設時から「在宅は病院を拠点に」と考えていました。当初は私がクリニックから患者さん宅へ、病院の医師が病院から別の患者さん宅へ、といったように並列で訪問していましたが、徐々に私の担当患者さんやそのご家族の理解を得ていき、病院開院の半年後くらいに完全に移行しました。

在宅医療も高齢化の進展によって地域ニーズの大きい分野です。足腰が悪かったり、高齢で車を手放したりした患者さんなどからの要望があるので、病院を拠点にすることで体制を整備できたのは良かったですね。以前は私1人で行っていましたが、現在は病院の医師2人が週に3日のペースで患者さん宅を訪問しています。クリニックとも連携しており、クリニックの患者さんで在宅医療の必要がある場合はクリニックから病院の相談連携室に伝え、相談連携室から患者さんやご家族に連絡することでその日のうちに今後のスケジュールが組まれるようになっています。

◆村田 尚彦（むらた・たかひこ）氏

1984年防衛医科大学卒。自衛隊富士病院などを経て、1993年に現「村田会湘南台内科クリニック」を開院。介護老人保健施設や住宅型有料老人ホーム、デイサービスセンターも運営し、2020年7月には「村田会湘南大庭病院」を開院した。

【取材・文・撮影＝医療ライター庄部勇太】

記事検索

ニュース・医療維新を検索

